

看護業務量調査結果からみた今後の課題

Future Problems Reflected from the Survey of Nursing Activity

看護部業務委員会：沢谷ゆき江

〈要 旨〉

平成10年度の病棟看護職員対象のタイムスタディー結果と平成元年からの推移の分析。看護記録時間は年々増加、全業務の12%を占め、引継ぎ時間は変化なし。

〈キーワード〉

タイムスタディー 看護業務量 看護記録時間 引継ぎ時間

1. はじめに

看護業務の問題点を明確にして、より良質で効率性の高い業務改善していくことを目的に、平成元年から業務量調査を実施している。昨年は、病棟再編成直後の調査であったが、今年は、各病棟の体制が安定してきた時期の調査である。現在の看護業務の実態を過去からの推移を含めて報告する。

2. 調査について

対 象：病棟部門看護職員

看護婦 214人、看護助手7人 計221人

(当日の看護婦数は202人だが、長時間勤務は510分で除して換算した)

期 日：10月5日(月)日勤～6日(火)深夜勤務

方 法：タイムスタディー(自己記載法)

調査項目は看護協会の看護業務区分表(1982年作成、1994年改正)を使用した。

3. 結果および考察

(1) 業務の内訳〈図1〉

- ・直接看護は50%、その他の看護は41%で、そのうちNS間の報告申し継ぎが11%、看護記録が12%であった。

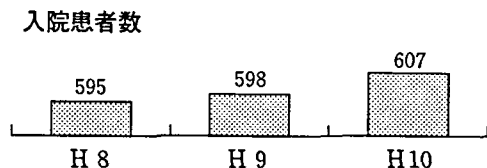
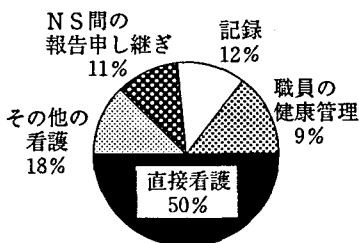


図1 H10年度 業務の内訳

(2) 総勤務時間と勤務人数〈図2〉

- ・本年の全病棟の総業務時間：125,136分 1人平均566分であった。
- ・平成3年から年々増加していた勤務時間，勤務人数はともに今年は減少した。
- ・ちなみに，調査日の入院患者数は昨年598人で今年は607人に増加している。

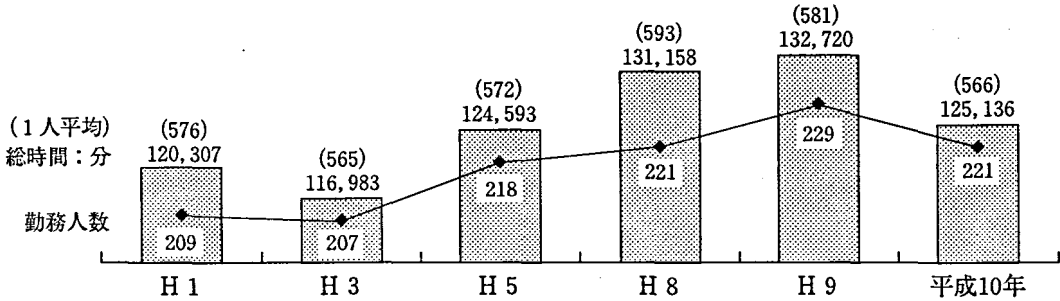


図2 勤務時間と勤務人数の推移

(3) 全36項目の昨年との比較〈図3〉

- ・増加したものは10項目で合わせて約4000分の増，その他はすべて減少しており，合計約12000分の減，プラスマイナス約8000分の減少である。

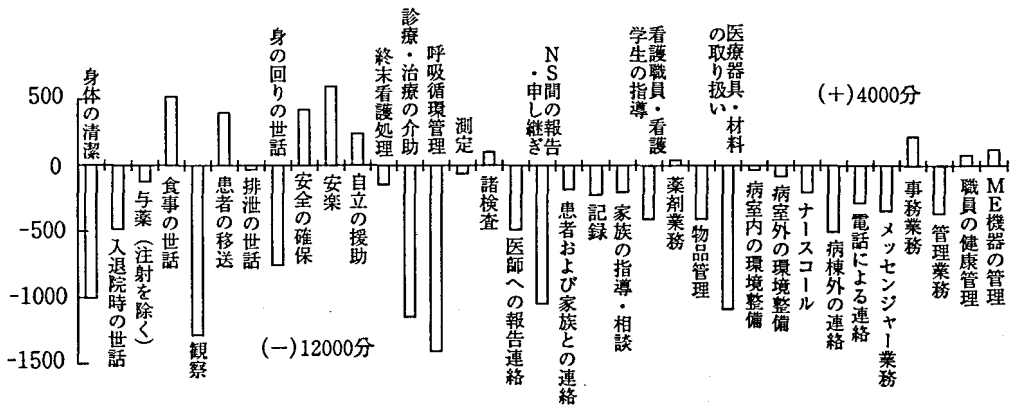


図3 昨年との比較(全36項目:総時間)

(4) 増減の差が大きな各6項目〈図4〉

- ・昨年より増えた項目は、安楽、食事の世話、安全の確保、患者の移送、自立の援助で、減少した項目は、呼吸循環管理、観察、診療治療の介助、医療器具・材料の取り扱い、身体の清潔、NS間の報告・申し継ぎでいずれも1000分以上の減少である。

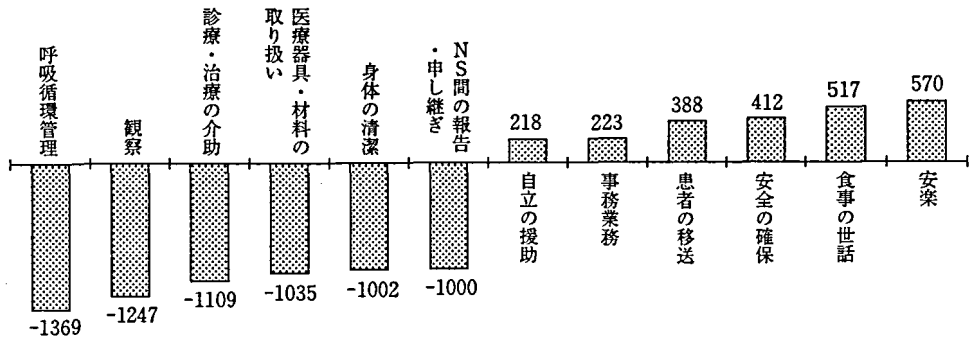


図4 増減上位各6項目

(5) 業務の比率の推移〈図5〉

- ・平成1年から増加していた直接看護は平成8年と9年と停滞し、今年は0.1%減少した。
- ・報告・申し継ぎと記録を除いた、その他の看護はやや減少傾向にある。
- ・NS間の報告申し継ぎはほとんど変化は見られない。
- ・記録は徐々に増加しており、今年は12.2%をしめている。

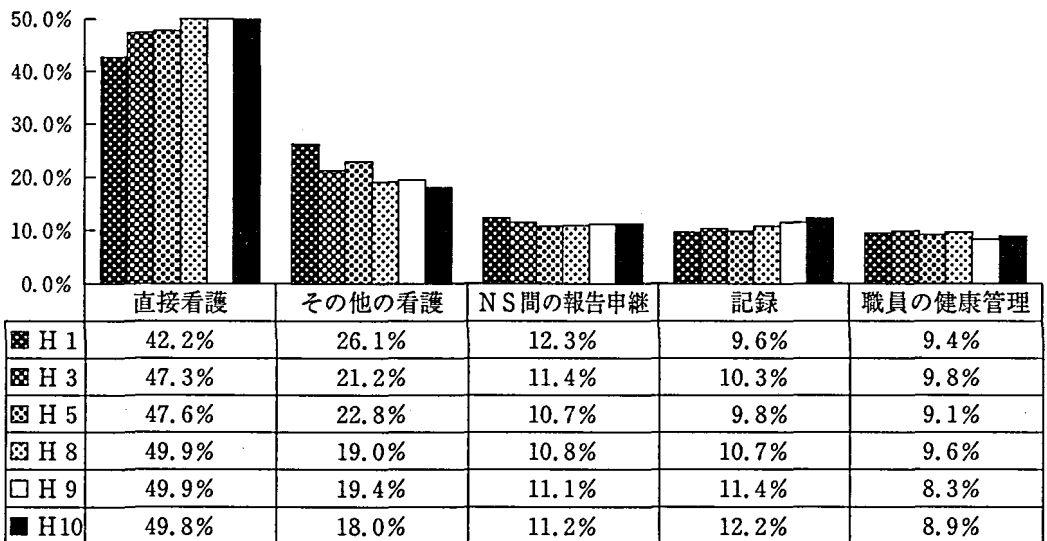


図5 業務内訳の推移

(6) 増加している直接看護の主な項目〈図6〉

- ・食事の世話、患者の移送、安全の確保、安楽、ナースコールが増加の傾向にある。

(7) 診療治療の介助の推移〈図7〉

- ・増加傾向にある直接看護のなかで、診療治療の介助は平成3年から約1000分づつ、総業務に対

する比率では1%づつ、調査ごとに減少しており、平成3年と今年では約4000分の差がある。
この状況下で、本当に必要な看護ができていのか見直す必要がある。

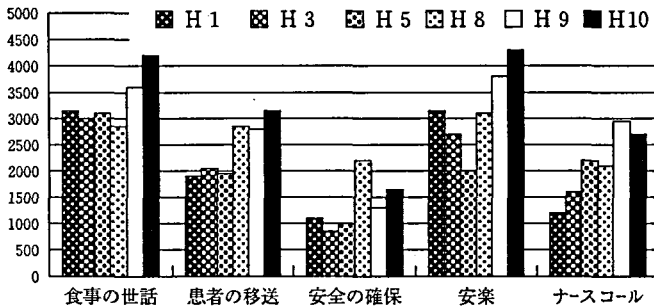


図6 増加傾向の直接看護項目

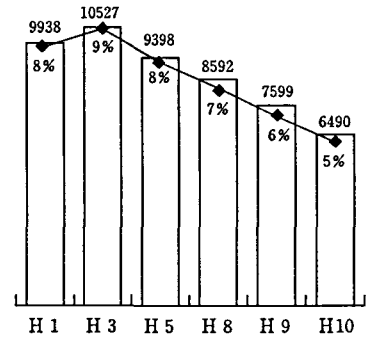


図7 診療・治療の介助の推移

(8) その他の看護が減少している主な項目〈図8〉

・減少しているのは、諸検査、職員・学生の指導、物品管理、器具材料の取扱いと平成2年に外注化されたメッセンジャー業務である。

(9) 薬剤業務の推移〈図9〉

・その他の看護のなかで薬剤業務は、昨年と今年では大幅に増加している。平成8年と比べると1600分の増加で、比率では2%から4%と倍増している。
・この増加の要因を分析し、効率的な改善を図る必要がある。

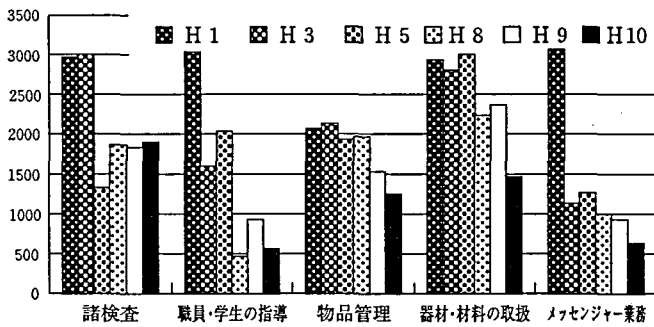


図8 その他の看護の減少項目

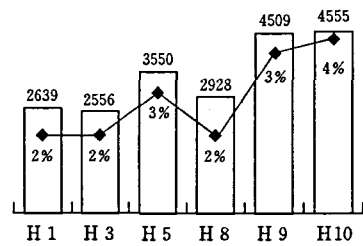


図9 薬剤業務の推移

(10) 記録時間の推移〈図10〉

・記録時間は年々増加しており、今年は昨年より200分減少したが、比率では0.8%の増加になる。
・総業務の12%以上を記録に要するのは問題であり、記録の開示という点からも、簡潔で人にわかる記録方法を習得していく必要がある。

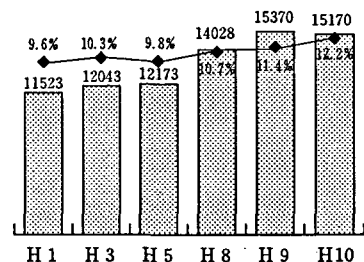


図10 記録時間の推移

(11) 病棟別記録時間〈図11〉

・総記録時間は東5が延べ1600分以上で群を抜いており、時間外記録では、東6、東4、東7が上位にある。

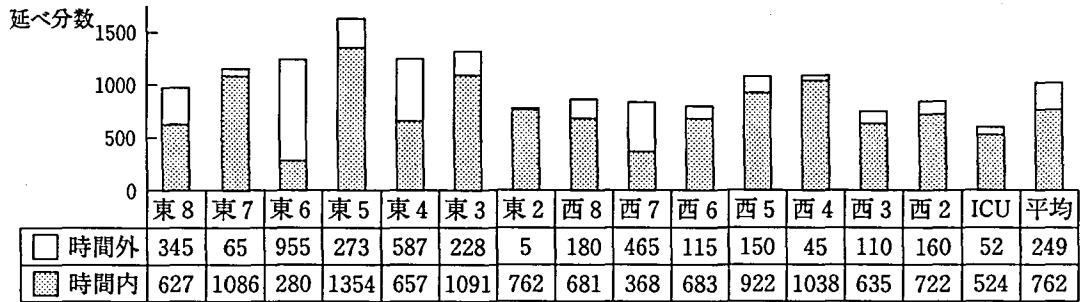


図11 病棟別記録時間

(12) 申し継ぎと時間外記録の関係〈図12〉

・時間外記録が少なく、ほぼ時間内に記録ができていたが、申し継ぎ時間が平均より長い病棟は東7、西6、西4、西2であった。

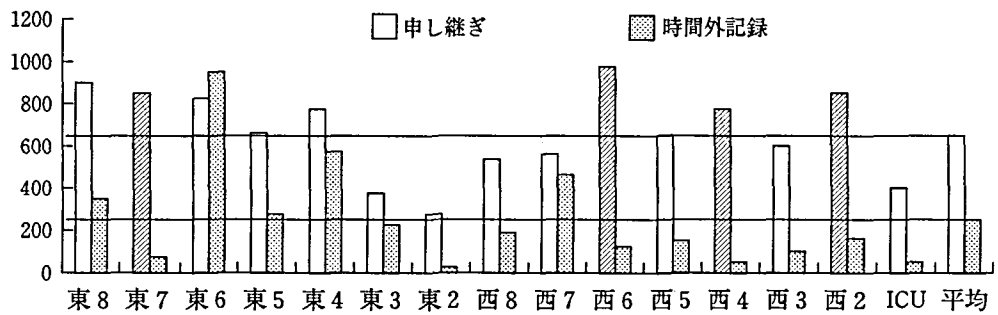


図12 勤務交替時間帯の申し継ぎと時間外記録(延べ時間:分)

(13) 総勤務時間と記録時間の関係〈図13〉

・勤務時間と総記録時間で相関係数が0.1635と低かったが、時間外記録では相関係数0.8155という高い値が出た。

・これは、業務量が多いと記録が後に残されている現実と一致する。

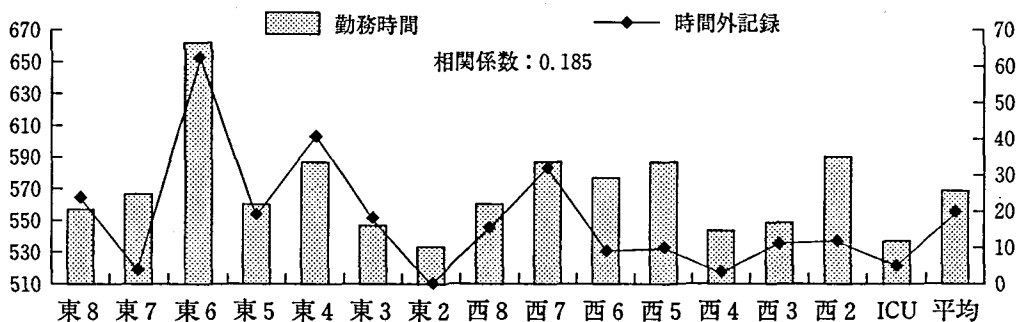


図13 1人平均勤務時間と時間外記録

(14) 看護助手の業務量 (図14)

- ・看護助手は昨年10人であったが、今年からフロア制になり7人になった。
1人平均勤務時間は531分から544分になり、13分の増である。
- ・病室内外の環境整備が約20分増えているが、昨年までは1人で1病棟であり、今年は1人で2病棟をこの増加分でカバーできているかは疑問である。
- ・身の回りの世話が大幅に減少、また患者の移送も減少している。これは2病棟受け持つことになって昨年のように手が回らなくなった結果であろう。
- ・メッセージ業務と薬剤業務等が増加しているが、助手の業務内容を再度分析して、必要な補助業務ができるよう、計画的に効率化を図る必要がある。

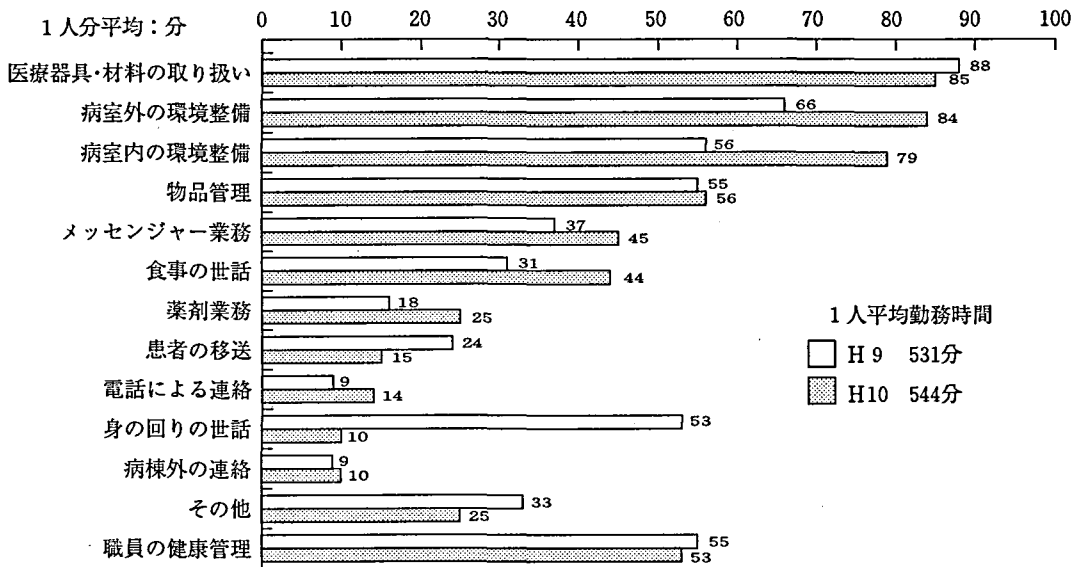


図14 看護助手の1人平均業務量

4. まとめ

- ① 診療治療の介助が年々減少している。
- ② 薬剤業務が増加している。
- ③ 記録時間が総業務の12%以上を占めている。
- ④ 時間内に記録ができていても、引継ぎ時間の短縮につながっていない傾向がある。
- ⑤ 看護助手のメッセージ業務と薬剤業務が増加している。

参考文献

- 1) 日本看護協会看護婦職能委員会：看護婦業務指針，1996，日本看護協会出版会
- 2) 米村京子：[ベッドサイドケア時間を作り出す] フォーカスチャータリング導入による業務改善の実際 時間短縮が図れるか，ナースデータ19(2),22-35,1998
- 3) 加藤洋子：[ベッドサイドケア時間を作り出す] 勤務体制・看護方式変革前後の業務内容の分析 ベッドサイドケアの充実を目指す，ナースデータ19(2),17-21,1998